

正会員意見交換会

事務局

4月14日、21日の両日、正会員による、「環境文明21の今後の活性化」についての意見交換会を開催しました。14日は13名、21日は7名の方がご参加。Web開催でしたが、藤村代表の趣旨説明の後、今後の活動の参考になるご意見を頂きました。

【趣旨説明】

本日の趣旨は環境文明21のこれからを共に考えて頂きたいということ。当会も9月で30周年を迎えるが、私自身、年齢的に代表としての活動はあと5年と考えている。その間に、「環境文明21」として持続できる状態にし活動を継続させるには、これまでの事務局中心の活動から次のステップに移行する必要があると考えている。そのためには、①5年後の体制の検討や実質的に活動する会員を増やすなどの組織強化、②普及啓発・政策提言・調査研究など外への働きかけの強化、③環境力クラブ活動の強化、などが必要と考えている（図参照）。

本日はこのうち、環境文明21という組織として持続するにはどのような活動が有効か？事務局主導の活動ではなく、自らが活動する会員として②の活動に対してどのような協力が得られるか？などについてご意見を伺いたい。なお③については既に環境力クラブメンバーで話し合いを進め、今年度から実質的活動を展開する予定である。

【意見の概要】

●事業活動

- ・30年続け、かなりすごいことだと思うので、設立の目的はある程度達成したのではないかと。今後はどの活動を重点的に行うのかははっきりさせるべき。
- ・持続可能な、という意味では、資金源も重要で事業活動を行うのが有効。
- ・環文のパーパス（存在意義）を明確化させるべき。設立当初とパーパスが変化している。調査研究、政策提言はもちろん重要だが事業にならない。中小企業のESG課題の解決をパーパスに入れてはどうか。中小企業のESG課題の解決などを広報し環境文明21の認知度を上げる方法を考えるべき。

●部会活動、調査研究

- ・研究者として自分ができることをやって研究成果になることを、環境文明の活動でもやれたらよいと考えている。環境行動を促す参加型の研究をしており、広く社会に伝えていきたいし研究活動共有の場にもしていきたい。
- ・（メールでの提案）として、「未来世代の権利」を明文化し、行政の決定に対し不服申し立てをできるようにする。積極的に「何かをせよ」というものではなく、「未来世代の権利」として拒否権が発動できるようなことを明文化するような活動で、部会としての開催はどうか。
- ・プラスチック問題は自販機同様、文明に関わる課題だが、方向性は示されていない。業界からも参加してもらい、部会を立ち上げることはどうか。
- ・会員だけでなく、外部からも参加できるような部会にしていく必要があるのではないかと。

● 会員間の交流

- ・ 会員間の交流・ネットワークを深めていくのもよいと思う。そこから部会活動につながるかも。
- ・ Zoomも利用できるし、正会員でリレートークなどしてみてもどうか。
- ・ 現在の活動をうまく利用すればよいのでは。例えば、エコツアーは企業人にとっても有意義だと思うので是非続けてほしい。その企画担当をアサインして色々考えてもらうのがよいのでは。

● 若者、無関心層との連携など

- ・ 若者をどのようにとりこむかを考えたらよいのでは。
- ・ FFFなど活動する若者は、自分たちの活動にしか関心がなく、接点を作りづらい。
- ・ 国立環境研究所でも若者と接点をもっているが、彼らも非常に多忙、かつ世代が変わっている。若者といっても多様なので、環文に近い若者に。また会員だけではない形で若者も参加できるような部会活動を行う方がよいのでは。
- ・ SNSは自分の関心のあるところしか見ない。それが自分の世界だと思ってしまう。その他の部分にはなかなか踏み込めない。
- ・ なんとなく関心はあるがよくわからない、という若者の層と接点を持てれば。
- ・ 息子が大学生になったが環境問題に関心がない。何故ないかという、今からやっても間に合わないから、とのこと。日本の将来をどうしていきたいかなど、切り口をかえていかないといけないのではないか。
- ・ 若者は関心がないという話だったが、若者以外も関心がない。「環境についての会話があるか」という調査をした結果、アメリカ、韓国などと比較して日本は非常に低い。他国に比べて関心がない、もしくは関心があっても話さない。
- ・ 日本の教育やお上思考も影響しており、親世代がそうなので子供世代を、というのは難しい。
- ・ 会報に、若い人が書くコーナーがあるとよい。
- ・ 社会の人々が環境に関心を持ってくれないのはメディアの問題だと思う。環境文明としてもっとメディアを突き上げてもいいのでは。

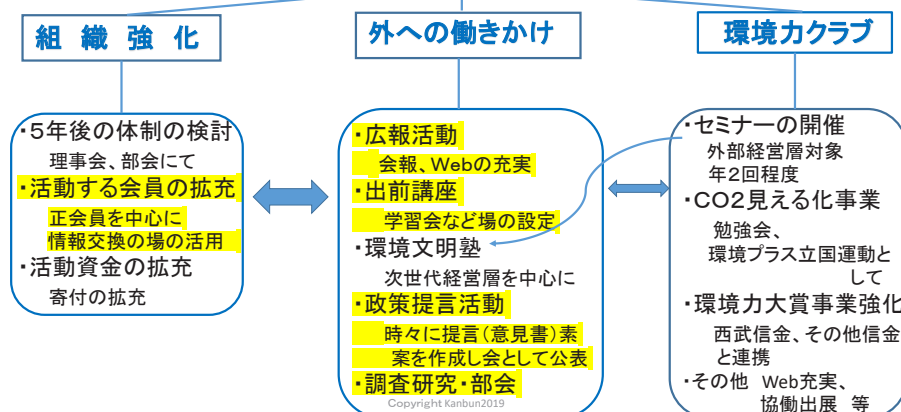
● その他

- ・ 奈良市はごみ処理場問題で非常に困っている。環境文明で奈良市の問題を解決してほしい。その実績ができれば他の自治体からも声がかかるのでは。
- ・ 首都圏では、例えば目黒では温排水をプールなどで利用している。名古屋では分別を徹底してゴミをなくした。奈良の問題を全国的に問題にすれば、すぐに予算がつくのでは。
- ・ 名古屋のごみ問題には関わっていた。その際の議論はいまでも同じようなもので、それをゲームにしているが、他のケースでも使える。そうしたことを語り継いでいく仕組みが必要では。
- ・ 企業は環境改善のためだけにはお金を出不さない。環境改善+@（雇用、地域のアメニティ等）が必要。
- ・ 部会でプラスチックの問題をとりあげ、奈良市の問題とも関連付けてやってみようか。

● 環境力クラブとの関係

- ・ 地元でCSR委員会の委員長をやっているが、自分たちがどうしていけばいいかを地方の企業は考えていない。
- ・ 環境力クラブでも、中小企業のそうした企業向けにセミナーを検討しており連携も可能。

環境文明21の活性化の全体像



【事務局からのお知らせ】

2度の意見交換会のご意見などを受け、当会として、新たに次の事業を行うこととしました。

1. 未来世代の権利に関するプロジェクト（仮称）

下記の荒田さんの提案を受け、当会に相応しい内容と考え新たなプロジェクトを立ち上げます。ただし、若者の参加が不可欠なことや、すぐに制度化まで持っていくことは難しいことなどから、当面は次の方法で数年をかけて行う予定です。なお立憲民主党でも取組が始められているようです。

(1)このテーマに関心のある若者、外部の方、会員による意見交換会の開催（年度内に数回）

※学校関係の会員や外部の有識者の協力を頂き、若者の参加者を募る

※会員の参加については、別途希望者を募る

(2)(1)を受けて検討会を立ち上げ、制度化についての検討を行う。

（荒田鉄二さんの提案）未来世代の権利の制度化に関するプロジェクト

持続性問題を倫理という側面から考える際には、世代間倫理が最も重要な論点になると考えられます。ここで鍵となるのが「未来世代の権利」という考え方で、未来世代に権利があるのであれば、現在世代にはそれを保証する義務があるということになります。そして、「未来世代の権利」を単なる理念にとどめるのではなく、それを実効性のあるものとするには、「未来世代の権利」を社会制度の中に組み込んでいくことが必要と考えられます。

世代間倫理と並ぶ環境倫理のもう一つの論点である「自然の生存権」については、開発行為など環境に係わる行政の許認可等に対して、環境NGO等に不服申し立ての訴訟を起こす原告適格を広範に認めることによって、それを社会制度の中に組み込んでいる事例もあります。

法治国家においては、司法制度を活用することも環境を守り持続性を実現していく上での一つの重要な手段と言えます。このプロジェクトでは、「未来世代の権利」を巡るこれまでの議論や「自然の権利」訴訟などの事例も参考にして、「未来世代の権利」の名において訴訟を起こすことを可能にし、かつ日本の法制度に合致するような仕組みを設計し、提案として取りまとめることを目指しています。

2. 環文サロンをオープン

会員同士の交流を深め、参加者同士が気軽に会話できる場として、月1回程度、定期的に（例えば○曜日○時から）ZOOMによるサロンを開催します。URLを、メールをお持ちの会員にお送りしますので、ご自由にご参加ください。

○その他、環境カクラブの活動として、クラブの勉強会の強化と併せて、経営層向けのオープンセミナーを開催します。